

干拓の歴史を訪ねる

史跡めぐり歩こう大会

(高尾野地域編)

《とき》平成24年5月20日(日)午前9時~12時15分

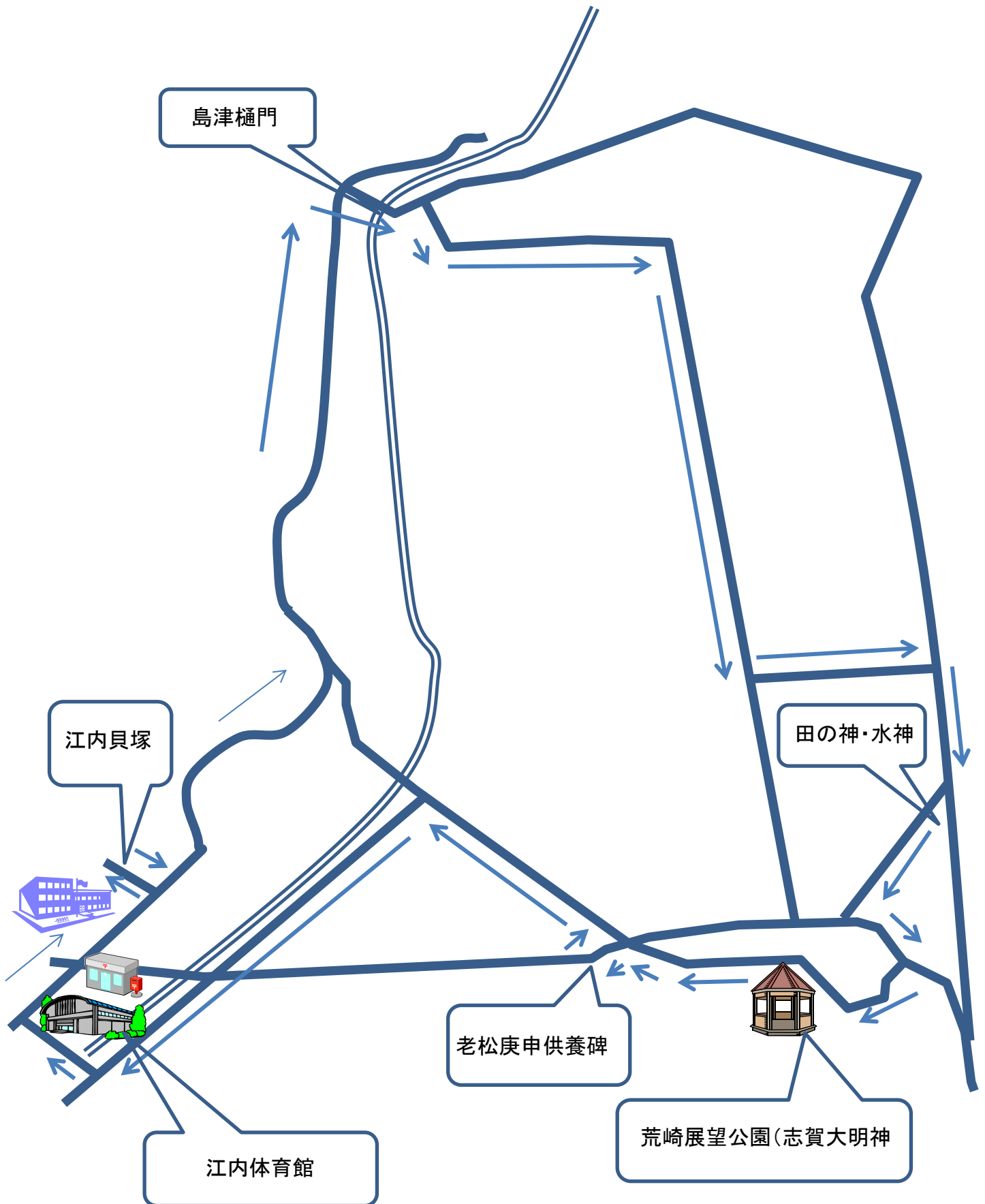
《ところ》江内体育館：出水市高尾野町江内3302番地2(発着場所)

《コース》①江内貝塚 ②島津樋門 ③田の神・水神 ③荒崎展望公園(志賀大明神)
④老松庚申供養碑



(荒崎展望公園から干拓地を望む)

史跡めぐり歩こう大会コース図





えうちかいづか
江内貝塚

貝塚とは、昔の人々のゴミ捨て場です。貝だけではなく、動物の骨や壊れた土器なども捨てられました。日本の土は、酸性の土壌で骨などは残りませんが、貝塚の場合は、貝で守られるために動物の骨や木器なども残り、当時の生活を知る上で貴重な遺跡です。

江内貝塚は、白石川流域の斜面、江内中学校の裏手にあり、笠山の東側の小高い丘の先端部にあります。

この貝塚は、中村一正氏の書いた『出水風土記』（大正3年）に貝塚らしいと紹介されていました。

昭和36年に小・中学生が発見した石鏟（せきぞく）などを出水高校教諭である池水寛治氏に届けたことがきっかけとなり、発掘調査が行われました。

その結果、配石遺構（はいせきいこう）・仰臥伸展葬（ぎょうがしんでんそう）の人骨が出土し、縄文時代前期から後期（約6000年前から4000年前）までの土器などが出土しました。

出水では、この他に出水貝塚、荘貝塚が発見されています。



しまづひもん
島津樋門

樋門とは、堤防を閉め切ったあと干拓地の中にたまっている水を外の海に流したり、海水が干拓地の中に入らないようにしたりするための門です。

この樋門は、荒崎干拓工事（1860年～1866年）の潮止めとして工事、構築されました。

荒崎干拓は、薩摩藩主の島津斉彬（しまづなりあきら）が江戸からの帰りに出水に立ち寄った際に江内村、荘村の海岸が遠浅なことに気づき、ここに新田を開くように指示しました。斉彬はやがて病気で亡くなり、次の藩主の島津忠義（しまづただよし）によって1860年に工事が始まりました。

工事のために阿久根・高尾野・出水から500人ほどの人々が集められ、天草・肥後からも600人の人々や、船100艘が集められました。堤防用の石は、串木野・市来・阿久根の大川島や近くの蕨島から切り出され運ばれました。

工事は、1863年に薩摩藩とイギリス艦隊との間に起きた薩英戦争の時に一時中断されましたが、1866年によりやく完成しました。



あきばだいみょうじんしゅうごう ひ おいまつこうしんくよう ひ
秋葉大明神習合碑 老松庚申供養碑

石碑の正面の一番上に、日輪（にちりん）、右側に「奉申庚供養堂」、左側に「秋葉大明神」と刻まれており、左側面に嘉永2年（1849年）塩浜才中と刻まれています。「秋葉大明神」は火の災害を防ぐ神様として、庚申碑は、中国から伝来した道教に由来する庚申信仰に基づいて建てられた石碑です。

庚申信仰では十干・十二支の組み合わせにより60日で一巡する庚申の日に、人体中の三尸虫が睡眠中に天上に昇って、天帝に人間の罪過を訴えると信じられていました。その虫が人体から出るのを防ぐために、夜を徹して仏教音楽や念仏行道を行うことが貴族社会において平安時代以来盛んになり、それに仏教・神道、また民間では待日(十五日・二十三夜待)が習合し、一般にも広まりました。庚申碑と秋葉神と一緒に祭られている碑は非常に珍しいものです。



田の神と水神

この田の神と水神は荒崎新田が1866年に完成されたことを記念して建てられたものです。

田の神は、農作物の豊作をもたらし、干ばつや水害などの災害を除いてくれる神様として薩摩藩領内に多く残っている石像です。水神は水源地や湧水のあ
る場所、ため池などの近くに建てられ、水の恵みを願い、水害などを除いてく
れる神様として建立されたもので、干拓地の水田を守るためにこの地に建てら
れました。



あらさきし か だいまようじん
荒崎志賀大明神

荒崎志賀大明神は、福岡県の志賀島（しかのしま）の志賀海神社（しかうみ）を分けて祭ったものです。志賀海神社は、海の総鎮護として漁業、海運業者などの信仰を受けています。昔は荒崎街道沿いにあったものを、安政元年（1854年）に天草から移住してきた平熊次郎という人が、安政5年（1858年）にこの地に移設したものです。



出水の干拓

出水地方は、米ノ津川・高尾野川・野田川が運びだした土砂の堆積や海面の後退により長い年月をかけて現在の形を作ってきました。出水の海岸線は3つの川の土砂の堆積の働きにより遠浅の海岸線が広がっています。干拓とは、自然に土砂の堆積を待つのではなく、人々の力で海を農地へ変化させた土地のことで「新地」ともいいます。出水の干拓の歴史は、300年ほど前の江戸時代から始まりました。

出水の干拓は次の表のように長い年月をかけ、行われて来ました。

名称	年代	西暦	面積等
庄新地	元禄初期	1690年頃	現在60 <small>ヘクタール</small>
野田新地	元禄初期	1690年頃	現在400 <small>ヘクタール</small>
下知識新地	元禄初期	1690年頃	上村北400 <small>ヘクタール</small>
江内新地	元禄13年	1700年頃	140 <small>ヘクタール</small>
今釜新地	元禄14年	1701年頃	110 <small>ヘクタール</small>
古浜新地	天保15年	1843年頃	田200 <small>ヘクタール</small> 塩田10 <small>ヘクタール</small>
庄潟新地	慶応2年	1866年頃	206 <small>ヘクタール</small>
出水干拓（西工区）	昭和33年	1958年頃	127 <small>ヘクタール</small>
出水干拓（東工区）	昭和40年	1965年頃	240 <small>ヘクタール</small>